

海外子会社マネジメント総合講座2020・春

セッション1：海外子会社における会計不正、横領、汚職の予防と早期発見の実務 / セッション2：海外子会社に対するガバナンス、リスクマネジメント、内部監査の実務
(セッション毎のご参加も可能です。)

《開催要領》 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ セッション1：2020年 3月 10日(火) 10:00~17:00
セッション2：2020年 3月 13日(金) 10:00~17:00
会場▶ 企業研究会セミナールーム (東京：麹町)

《ご参加頂きたい方》

総務・法務、経営企画、関連企業、監査部門等をご担当の方

講師 東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科 教授 GRCアドバイザー 毛利正人事務所 代表
米国公認会計士・公認内部監査人・公認情報システム監査人 毛利 正人 氏

講師紹介 【略歴】早稲田大学政治経済学部卒業(経済学)、米国ジョージワシントン大学修士課程修了(会計学)。米国公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人。国内大手企業、国際機関(在ワシントン DC)、大手監査法人エンタープライズリスクサービス部門ディレクター、外資系グローバル・リスクコンサルティング会社代表取締役社長を経て、2017年4月より現職。世界各国で、買収海外子会社へのガバナンス導入、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部監査等のプロジェクトを数多く実施。著書として、「図解海外子会社マネジメント入門」、「リスクインテリジェンス・カンパニー」(共著)、「内部監査実務ハンドブック」(共著)がある。

《申込方法》 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

■受講料：1名(税込み・昼食代含む) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用法(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

両セッション参加	正会員	77,000円(本体価格 70,000円)	一般	82,500円(本体価格 75,000円)
1セッションのみ参加	正会員	44,000円(本体価格 40,000円)	一般	49,500円(本体価格 45,000円)

受講希望に「✓」をご記入下さい。		<input type="checkbox"/> セッション1参加 (191916-0101)	<input type="checkbox"/> セッション2参加 (191916-0101)
ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 役	属 職	
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領：当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認ください。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先：企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail:tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

・プログラム・

2020年3月10日(火) 10時~17時
＜セッションI (三大不正への対応編)＞
海外子会社における会計不正、横領、汚職の予防と
早期発見の実務

～日系海外子会社の巨額粉飾事案【8件のケーススタディ】の分析、
三大不正のリスク低減に向けた具体的ポイント～

＜プログラム＞

I. 海外子会社における三大不正と不正発生の根本原因
(不正のトライアングル)

II. 会計不正(粉飾)の種類と日系海外子会社の
巨額粉飾事案の分析【8件のケーススタディ】

- (1)不正の体系図全体像における財務報告不正:粉飾の位置づけ
- (2)粉飾決算のタイプ別分類
【2010年~2017年の間に発生した日系企業8件のケーススタディ-
実事例から何を学ぶべきか】
- (3)音響メーカー欧州曾孫会社の事例(現地経営者による売上の
過大計上)
- (4)住宅関連メーカー中国孫会社の事例(M&Aで取得した
欧州子会社の中国子会社の事例)
- (5)金融会社の台湾孫会社の事例(日本人駐在員幹部による
主導の事例)
- (6)他、合計8件の各事例における共通点、相違点
- (7)主な不正のスキーム(どのような不正であったのか?)
- (8)不正の発生を許した要因(何故不正が起き、長期に隠べ
てきたのか?)
- (9)不正発覚の経緯(何がきっかけで発覚したのか?)
- (10)財務上の不正の兆候
(財務諸表に不正の兆候は現われていたのか?)

III. 過去の海外子会社会計不正から学ぶべき点

- (1)どのような手続きを実施すれば早期に発見できたのか(財務分析等)
- (2)どのような体制があれば会計不正のリスクを低減できたのか
(内部監査等)

IV. 会計不正の予防と早期発見に向けた具体的ポイント

- (1)本社における子会社の財務諸表分析
- (2)本社または地域統括会社におけるデータモニタリング

V. 海外子会社における資産横領、不正流用
(不正発覚の端緒、代表的な横領の手法等)

VI. 海外子会社における汚職
(効果的なコンプライアンスプログラム等)

*副教材として、講師著「図解 海外子会社マネジメント入門」(東洋経済新
報社)を、お一人様に一冊に配付いたします。

2020年3月13日(金) 10時~17時
＜セッションII (GRC編)＞

海外子会社に対するガバナンス、
リスクマネジメント、内部監査の実務

～ガバナンスの導入手法と成功事例、
リスクマネジメントとコンプライアンスの一体的推進、
内部監査体制の構築・運用のポイント～

＜プログラム＞

I. 海外子会社マネジメントに必要な不可欠な要素として
のGRC

- (1)日本企業の海外での経営失敗パターン
- (2)現地への権限委譲と本社からのコントロールのバランス

II. 海外子会社ガバナンスの手法と体制

- (1)日本人駐在員によるコントロールの限界
- (2)子会社への仕組み導入によるガバナンス
- (3)参考例としての米国多国籍企業の体制
【成功事例】日本企業の大規模M&A後のガバナンス導入事例

III. 海外子会社ガバナンスのデザイン

- (1)ガバナンス導入に際して考慮すべき企業活動の要素
- (2)効果的な日本人の駐在員ポストとは
- (3)現地経営者にリスク管理させる手法
- (4)本社が全体を把握する手法
【成功事例】日本企業によるグローバル・グループ・ガバナンス
の導入事例

IV. 海外子会社におけるリスクマネジメント活動の展開

- (1)経営現地化、権限委譲、リスク
- (2)経営目的に叶うリスクマネジメント活動の進め方とは
- (3)導入初年度の最低限の活動
- (4)導入2年目以降の展開
- (5)海外子会社に主体的・継続的にリスクを管理させる方法など
【事例】グローバルグループへのリスクマネジメント体制導入事例

V. リスクマネジメント活動の一環としての
コンプライアンス活動の展開

【事例】リスクマネジメントとコンプライアンスの一体的推進活動事例

VI. 海外子会社に対する内部監査活動の展開

*副教材として、講師著「図解 海外子会社マネジメント入門」(東洋経
済新報社)を、お一人様に一冊に配付いたします。

裏面もご覧下さい！ 一枚のパンフレットで
2種類のセミナーをご案内しております。